

【様式】

令和5年度学校マネジメントシート

学校名（ かがやき特別支援学校 ）

1 目指す姿

<p>(1) 目指す学校像</p>	<p>医療及び福祉機関と連携した教育環境のもとで、子どもたちが学びあい、教育活動全体を通して学ぶ楽しさとわかる喜びを感じ、子どもたち自身が自分の願いや目標を達成できるよう指導・支援する学校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○隣・併設する病院と連携し、病院の多職種（医師、看護師、保育士、PT・OT・ST等）と連携した「チームかがやき」として入院する児童生徒の一人ひとりのニーズに応じた教育を推進する。</li> <li>○本・分校3校が連携し、県内の特別支援学校のセンター的機能を牽引するセンターオブセンターとして、本県の病弱教育、肢体不自由教育及び発達障がい支援を推進する。</li> </ul> <p><b>【緑ヶ丘校】</b> 国立病院機構三重病院（以下、三重病院）・三重大学医学部附属病院（以下、三重大学病院）との連携による病弱虚弱教育の拠点校</p> <p><b>【草の実校】</b> 三重県立子ども心身発達医療センター（以下、医療センター）の整形外科・リハビリテーション科、草の実病棟、三重病院との連携による肢体不自由教育の拠点校</p> <p><b>【あすなる校】</b> 医療センターの児童精神科、あすなる病棟との連携による発達障がい支援の拠点校</p>
<p>育みたい児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○思いやりと優しい気持ちをもち、自他のいのちを大切にする子ども</li> <li>○確かな学力と社会性を身につけ、生活の中で生かそうとする子ども</li> <li>○友だちと助け合い、知恵を合わせて課題を解決しようとする子ども</li> </ul> <p><b>【緑ヶ丘校】</b> 一人ひとりに応じた健康的な生活や自分らしさを大切にし、確かな学力を身につけ、自信と希望をもって地域に戻ることができる児童生徒を育てる。</p> <p><b>【草の実校】</b> 一人ひとりの心身の発達に応じた学力・コミュニケーション能力や豊かな人間性を身につけ、積極的に社会参加することができる児童生徒を育てる。</p> <p><b>【あすなる校】</b> 一人ひとりに応じた学び方や対人関係の築き方を身につけ、確かな学力と自信をもって生活を送ることができる児童生徒を育てる。</p>
<p>(2) ありたい教職員像</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○隣・併設する病院と緊密に連携し、病弱教育、肢体不自由教育及び発達障がい支援の専門的な知識を有するとともに、入院する児童生徒の想いに共感し、寄り添う姿勢で、授業改善に積極的に取り組んでいる。</li> <li>○本県の病弱教育、肢体不自由教育及び発達障がい支援の中核となる学校の教員として県内の特別支援教育を推進するという使命感をもち、3校共通の校務分掌組織（指導部・運営部・支援部で構成される3部体制）のもとで同僚や関係機関との協働を通して自らのキャリアアップに努めている。</li> <li>○特別支援学校の教職員として、子どもたち一人ひとりの実態に応じた指導・支援を誠実・丁寧に進めることで児童生徒及び保護者・関係者からの信頼に応えるとともに、高い人権意識と共感的な態度で真摯に教育活動に取り組んでいる。</li> </ul> <p><b>【緑ヶ丘校】</b> 三重病院・三重大学病院との連携</p> <p><b>【草の実校】</b> 医療センターの整形外科・リハビリテーション科、草の実病棟、三重病院との連携</p> <p><b>【あすなる校】</b> 医療センターの児童精神科、あすなる病棟との連携</p>

2 現状認識

<p>(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待</p>	<p>&lt;児童生徒&gt;          ○毎日元気に登校し、学習や体験活動を通して楽しい学校生活を送りたいと願っている。          ○「わかる授業」に基づく学力の保障や退院後の前籍校への復籍や社会参加につながる技能・知識の習得を望んでいる。          &lt;保護者&gt;          ○退院後の復籍、進学に向けて、児童生徒の実態に合わせた丁寧な指導が行われることを望んでいる。          ○児童生徒の一人ひとりのニーズに応じた教育が行われ、自己実現と社会参加につながる技能・知識を習得し、個々に応じた進路が保障されることを望んでいる。          &lt;前籍校&gt;          ○支援情報の共有や具体的な助言等の支援によるスムーズな復帰を期待している。</p>	
<p>(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待</p>	<p>連携する相手からの要望・期待</p> <p>&lt;保護者&gt;          ○復学時等に学習進捗で遅れないこと          &lt;前籍校&gt;          ○治療後の円滑な復籍          &lt;病院&gt;          ○治療に有効に寄与する学校生活の充実と情報共有          ○支援の共通理解、役割分担の明確化          &lt;関係諸機関&gt;          ○退院後、地域での生活にスムーズ移行するうえで必要となる情報の共有          ○卒業後の生活を見越した密接な連携と生徒の情報提供          ○生徒の基本的な生活習慣の確立と保護者の協力</p>	<p>連携する相手への要望・期待</p> <p>&lt;保護者&gt;          ○見守りや教育活動に対する理解と協力          &lt;前籍校&gt;          ○支援情報の共有          &lt;病院&gt;          ○医療情報等の共有と密接な連携          ○教育環境・内容の充実に係る理解と協力          &lt;関係諸機関&gt;          ○退院後、地域生活を支えるうえで必要となる支援の情報提供と役割の分担          ○卒業後の進路及び生活に係る情報提供と支援          ○就労についての理解と就業体験の機会の増加</p>
<p>(3) 前年度の学校関係者評価等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校と病院が連携した様々な取組を進めるなか、病院が主催する児童生徒の入退院に係る会議やケースカンファレンス等への教員の出席について感謝する。</li> <li>・児童生徒の満足度を3校で比較すると、あすなる校の数値が低いことから、病院としても学校との情報共有を迅速かつ綿密にし、教育活動の充実につながれるとよい。</li> <li>・教職員の満足度について、3校間で差があることから、各校それぞれの実情を踏まえたうえで3校間の同僚性を高め、風通しの良い職場づくりを進めてもらうとよい。</li> <li>・業務の精選や見直し、業務分担での工夫をするなど、時間外労働時間の縮減や教職員間の業務の平準化の取組を一層進めてもらうとよい。</li> <li>・病院との連携や地域支援を進めるうえで、あすなる校で取り組んでいる感情抑制や衝動制御等、感情のコントロールが難しい子どもたちへの教育環境の構造化について、医療関係者や小中学校へ実践に基づき理論的に説明できるとよい。</li> <li>・開校以降6年が経過し、今後は教職員の入れ替わりが想定される。学校の専門性の維持・向上や、小中学校等のニーズに応じた支援の実施には、小中学校との人事交流を含む新たな人材の育成が必要である。</li> </ul>	
<p>(4) 現状と課題</p>	<p>教育活動</p>	<p>○一人ひとりの児童生徒の病状や学習状況、進路状況が様々であることから、多様な教育的ニーズに応えるために丁寧な実態把握と柔軟な対応を行う必要がある。          ○児童生徒の前籍校へのスムーズな復籍に向けて、復籍支援パンフレット等を活用するなど前籍校との連携をさらに丁寧に進め、細やかな支援を行う必要がある。          ○隣・併設する病院と連携した「チームかがやき」として機動力のある支援体制を構築し、教育相談等の地域支援、「かがやき講座」等による研修支援、学校ホームページや理解啓発用冊子を利用して医療と連携した先進的な情報の積極的な発信等に努めるセンターオブセンター機能を発揮する必要がある。</p>

学校  
運営等

- 本・分校3校で運営するスケールメリットを活かし、3校が連動した一体感のある校務運営（指導部・運営部・支援部の3部体制）を進めることで、効率的・合理的な運営に努めるとともに時間外労働時間の削減につなげる必要がある。
- 学校における不祥事防止に向け、「信頼される学校であるための行動計画」に基づく取組を継続するとともに、「学校信頼向上委員会」の運営を通して全教職員にコンプライアンスの徹底を浸透させることで県民からの学校教育に対する信頼回復を図る必要がある。
- 教職員が自ら学び生き生きと業務に取り組むことで自己の力を十分に発揮するとともに、助け合いながら業務を行うことで達成感や充実感を共有できる風通しの良い職場環境づくりを進め、職員満足度の向上を図る必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動

○多様な教育的ニーズへの対応

【3校共通】

児童生徒の病状や学習状況を転入時に丁寧に把握し、病院に入院する児童生徒であるという背景や個々の病状を十分に理解したうえで、児童生徒の想いに寄り添った教育活動を行い、ICT機器の活用も視野に入れるなど今後の復籍を見据えた丁寧な支援を進める。

【緑ヶ丘校】

児童生徒の前籍校と緊密に連携し、授業進度を確認しながら学力保障を着実に進めるとともに、病状に応じて柔軟に対応できるオンライン教育について引き続き研究を深め、実践につなげる。

【草の実校】

医療センターや三重病院との緊密な連携により肢体不自由のある児童生徒の発達段階を踏まえた系統的な教育について研究し、ICT機器の活用を含め、実践につなげる。

【あすなる校】

医療センターとの連携により、発達障がいの特徴に応じた指導を丁寧に進めるとともに、個別の指導計画に基づき、教職員が課題を共通理解したうえで統一感のある指導を進める。

○前籍校への復籍支援

【緑ヶ丘校】

入院期間が多様な中、三重病院や三重大学病院、前籍校等と入院直後から緊密に連携して、児童生徒や保護者の安心感につながる復籍支援を進める。

【草の実校】

医療センターや三重病院、前籍校等と緊密に連携して、児童生徒一人ひとりに応じた支援情報の引継ぎを着実にやり、円滑な復籍支援を進める。

【あすなる校】

医療センターや前籍校と連携し、個々の児童生徒に応じた支援情報の引継ぎを着実にやり、円滑な復籍や進学につながる支援を進めるとともに、退院後の児童生徒の状況把握に努める。

○センターオブセンター機能の発揮

【緑ヶ丘校】

三重病院・三重大学病院との連携のもとで病弱教育に係る情報発信に努めるとともに、三重大学病院に入院する高校生の支援、高等学校への発達障がい支援の充実を図る。

【草の実校】

医療センターと連携した支援の充実や情報の発信等により、県内の小中学校の特に肢体不自由特別支援学級に向けての支援の充実を図る。

【あすなる校】

医療センターと連携した発達障がい支援の拠点として、県内の特別支援学校との協働により小中学校等への支援の充実を図る。

○3部体制による組織的・効率的な校務運営【3校共通】

本・分校3校で学校運営にあたるスケールメリットを活かし、3部体制（指導部／運営部／支援部）による校務運営の一層の効率化を図ることで時間外労働時間の削減につなげる。

○コンプライアンスの徹底【3校共通】

「学校信頼向上委員会」を定期的開催し、不祥事防止の取組を計画的に進めるとともに、本校で作成した「教職員の不祥事防止のためのセルフチェックリスト」を定期的実施し、教職員全員がコンプライアンスの徹底を日常的に意識できる取組を進める。

○働きやすい職場環境づくり【3校共通】

教職員が達成感や充実感を共有できる職場環境づくりを進める中で職員満足度の向上を図るとともに、教育実習や介護等体験、学生ボランティア等の積極的な受入によって地域資源の活用に着目した教職員の意識の活性化を図り、あわせて人材育成の場とする。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
多様な教育的ニーズへの対応	<p><b>【3校共通】</b> 児童生徒の授業進度や病状等の特性を考慮した教育を推進する</p> <p><b>【緑ヶ丘校】</b> 児童生徒が学習空白を感じることなく円滑に復籍できる指導・支援を行う。</p> <p><b>【草の実校】</b> 丁寧な実態把握に基づいて個別の指導計画を作成し、児童生徒の発達段階や身体状況に即した系統的な指導を進める。</p> <p><b>【あすなる校】</b> 個別の指導計画に基づく統一感のある指導によって、児童生徒の安定した学校生活につなげる。</p> <p>＜成果指標＞児童生徒及び保護者対象の「学校生活アンケート」結果に「本校の教育支援に満足している」と回答した割合：90%以上</p>	<p><b>【緑ヶ丘校】</b> 児童生徒： 91% 保護者： 93% 回収率 68% 児童生徒 72/112人 保護者 81/112人</p> <p><b>【草の実校】</b> 児童生徒： 63% 保護者： 100% 回収率 71% 児童生徒 2/2人 保護者 20/28人</p> <p><b>【あすなる校】</b> 児童生徒： 82% 保護者： 94% 回収率 74% 児童生徒 54/74人 保護者 52/69人</p>	
前籍校への復籍支援	<p><b>【緑ヶ丘校】</b> 前籍校へのスムーズな復籍に向け、復籍支援パンフレットを活用した病弱児に対する理解啓発を促進する。 ＜活動指標＞復籍支援パンフレットの活用による前籍校への周知：全在籍児童生徒の前籍校</p> <p><b>【草の実校】</b> 支援のポイント等を伝え、現在使用している教材・教具を指導方法とセットで前籍校に提案することでスムーズな復籍につなげる。 ＜活動指標＞復学の際の前籍校への教材教具の提供：全在籍児童生徒の前籍校</p> <p><b>【あすなる校】</b> 児童生徒の特性や学習状況、支援のポイントを前籍校へ伝えるとともに、教科指導等で活用している教材を提供し、よりスムーズな復籍につなげる。 ＜成果指標＞前籍校へのアンケートで、提供した教材の活用について「活用できた」と回答した割合：75%以上</p>	<p><b>【緑ヶ丘校】</b> 100% (112人96校)</p> <p><b>【草の実校】</b> 100% (9人5校)</p> <p><b>【あすなる校】</b> 100% (20/21校)</p>	

<p>センターオブセンター機能の発揮</p>	<p><b>【緑ヶ丘校】</b>  ○三重大学病院に入院中の高校生へ対面及びICT機器の活用による授業の実施や心理的支援を促進する。  &lt;成果指標&gt;高校生支援に係る前籍校の満足度(とても満足+満足):80%以上  ○発達障がい支援員との役割分担のうえ、他の特別支援学校と連携した高等学校への発達障がい支援に係る取組を推進する。  &lt;活動指標&gt;高等学校における通級による指導の充実に向けた関係者会議への地域支援コーディネーターの参加:年10回以上</p> <p><b>【草の実校】</b>  ○医療センターの専門家と連携した新たな相談体制による小中学校等への支援に取り組む。  &lt;活動指標&gt;市町立小中学校の肢体不自由特別支援学級からの相談件数:年10件以上  ○発達水準別に整理した教材教具の使用目的別・使用方法別の情報を発信する。  &lt;活動指標&gt;ホームページに掲載する教材教具の更新回数:年10回以上</p> <p><b>【あすなる校】</b>  ○医療センター及び県立特別支援学校と連携し、小中学校に在籍する発達障がいのある児童生徒への支援を充実する。  &lt;活動指標&gt;小中学校等への発達障がいに係る支援を行ったのべ数:50校以上  ○小中学校等の教員を対象とした発達障がい支援に係る各種研修を実施する。  &lt;成果指標&gt;授業実践報告会への小中学校教員及び県立特別支援学校コーディネーター等の参加者総計:150人以上</p>	<p><b>【緑ヶ丘校】</b>  ○100%(5校)</p> <p>○11回</p> <p><b>【草の実校】</b>  ○19件</p> <p>○8回</p> <p><b>【あすなる校】</b>  ○74校</p> <p>○159人</p>	
------------------------	---	--	--

改善課題

○多様な教育的ニーズへの対応

児童生徒及び保護者の気持ちや願い等を聴き取り教育的なニーズを把握し、病院・病棟や前籍校、関係機関との情報共有や意見交換等を通して、一人ひとりの指導・支援に取り組むことで、児童生徒及び保護者に概ね満足いただけた。緑ヶ丘校及びあすなる校では、前籍校への復帰に対する保護者の不安を解消する必要がある。

○前籍校への復籍支援

児童生徒が前籍校へ復帰する際には、パンフレットの活用、前籍校訪問やWeb会議での引継ぎ、教材教具の提供等、3校の実情に応じた方法で前籍校との連携を密に行い、円滑な復籍につなげることができた。一方、短期入院する児童生徒の前籍校との引継ぎや実態把握、前籍校の教育環境に応じた実効性の高い支援内容や方法等の提供については、今後も工夫が必要である。

○センターオブセンター機能の発揮

3校それぞれの専門性を活かした地域支援に取り組むことができた。緑ヶ丘校では、高等学校からの支援要請に対してコーディネーターを中心にした組織的な対応が求められる。また、三重大学附属病院に入院する高校生のニーズに応じた支援のあり方を検討する必要がある。草の実校では、肢体不自由教育に関する地域支援について、他の特別支援学校との役割分担を明確にし、病院併設校ならではの医療と連携した支援のあり方を検討する必要がある。あすなる分校では、小中学校への発達障がいに支援の取組は実施できているが、地域支援や復籍支援を着実に実施していくには、今後の人事異動を見据え、担当するコーディネーターの育成に取り組む必要がある。

## (2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
組織的・効率的な校務運営による働き方改革の推進	<p><b>【3校共通】</b> 3校に関連する業務について、テーマ毎の3校会議を効果的に開催することで組織的・効率的な校務運営に取り組む。 ＜活動指標＞各分掌部での3校会議の開催：年3回以上</p>	<p><b>【3校共通】</b> 指導部： 5回 運営部： 9回 支援部： 7回</p>	
コンプライアンスの徹底	<p><b>【3校共通】</b> ○「学校信頼向上委員会」の定期的な開催及び「教職員の不祥事防止のためのセルフチェックリスト」の活用により教職員のコンプライアンス意識の徹底を図る。 ＜活動指標＞ 学校信頼向上委員会の企画する不祥事根絶に向けた研修等の実施回数：毎月 セルフチェックリストに基づく注意喚起：毎学期</p>	<p><b>【3校共通】</b> 信頼向上委員会： 3回 校内研修会： 8回 セルフチェック： 3回</p>	
働きやすい職場環境づくり	<p><b>【3校共通】</b> 教職員全体の業務内容を見直し、改善を図ることで業務の平準化を図り、生き生きと仕事ができる環境づくりに取り組む。 ＜活動指標＞ ○設定した日の定時に退校できた教職員の割合：80%以上 ○放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合：90%以上 ＜成果指標＞ ○時間外在校等時間が年360時間を超える教職員数：0人 ○時間外在校等時間が月45時間を超える教職員の延べ人数：0人 ○1人当たりの月平均時間外在校等時間：30時間以下 ○1人当たりの年間休暇取得日数：15日以上 ○「教職員満足度アンケート」で「日々の仕事にやりがいを感じ生き生きしている」と回答する教職員の割合：70%以上</p>	<p><b>【3校共通】</b> 定時退校： 84% 会議終了： 88% 年360時間超： 0人 月45時間超： 0人 月平均： 7.3時間 休暇取得： 15.8日</p> <p><b>【緑ヶ丘校】</b> 定時退校： 82% 会議終了： 87% 年360時間超： 0人 月45時間超： 0人 月平均： 5.4時間 休暇取得： 15.3日</p> <p><b>【草の実校】</b> 定時退校： 84% 会議終了： 85% 年360時間超： 0人 月45時間超： 0人 月平均： 7.0時間 休暇取得： 17.3日</p> <p><b>【あすなろ校】</b> 定時退校： 85% 会議終了： 93% 年360時間超： 0人 月45時間超： 1人 月平均： 9.7時間 休暇取得： 14.9日</p> <p>やりがいを感じる 教職員の割合 <b>【緑ヶ丘校】</b> 86% <b>【草の実校】</b> 82% <b>【あすなろ校】</b> 61%</p>	

## 改善課題

### ○3校の組織的・効率的な校務運営による働き方改革

3校に共通する業務については、必要に応じて3校の担当者会議を開催することで、効率的な業務の遂行や成果につながった。今後、統一校務支援システムの運用や防災対策等の新たな取組について、3校が協力して課題改善に取り組む必要がある。

### ○コンプライアンスの徹底

各校の実情に応じたコンプライアンス研修に取り組んだ。3校合同によるグループ討議では、幅広く意見交換を行うことで新たな気づきを得る機会になった。引き続き、教職員のコンプライアンスに係る意識向上に向け、研修内容や実施方法等を工夫する必要がある。

### ○働きやすい職場環境づくり

会議の縮減に取り組んでいるが、設定時間内に終了しないこともあり、引き続き、提案方法や時間管理について工夫が必要である。

特定の教職員に主要業務が重なったり、担当業務によって量や負担感等に差が生じていたりすることから、業務の見直しや分担、運営体制等について検討する必要がある。

教職員満足度調査では、やりがいを感じる教職員の割合が学校間で差があることから、不公平感や精神的負担感、多忙感を解消し、働きがいを感じられるよう、3校間のバランスに配慮した学校運営に努める必要がある。

## 5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<ul style="list-style-type: none"><li>・前籍校への復帰に関する保護者の不安の解消のためには、児童生徒や学校の様子を保護者に知ってもらうことや、円滑に復籍できるよう前籍校への働きかけを引き続き行ってもらおうとよい。</li><li>・肢体不自由学級への地域支援を丁寧に実施しており、今後も継続してセンター的機能の取組を進められるとよい。</li><li>・各病院と学校の関係性や転出入の流れを示した学校案内リーフレットは、病気の子どもや保護者、病院関係者等にも分かりやすく、有効活用できるよい。</li><li>・病院に隣併設する学校ならではの教員の専門性が求められることから、在職期間中に段階的にスキルアップできるとよい。</li><li>・統一校務支援システム等の活用が、業務負担の軽減につながるとよい。一方、システムに関する知識や技能を有する職員の負担とならないよう工夫が必要である。</li><li>・やりがいを感じる教職員の割合について、あすなる校の数値が低く、要因として学級担任や各コーディネーター等の業務内容、各教員の経験の程度、病院との会議の持ち方等が考えられるが、引き続き改善に向けた取組が進められるよい。</li><li>・やりがいの感じ方は個々で差異はあると思うが、職場内での認め合いや助け合い等、同僚性を高めることで改善につながるとよい。</li><li>・児童生徒の病気や障がいの特性に応じた対応を教員間で共通理解し、統一感のある指導を行うことで、各教員の戸惑いや不安の緩和、負担感の軽減につながるとよい。</li></ul>
---------------------	--

## 6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none"><li>・前籍校への復帰に関して保護者の安心感につながるよう、教育活動内容や児童生徒の様子等を授業や行事の参観、懇談会等を活用し丁寧に伝えていくとともに、児童生徒と前籍校との関係が途切れないよう前籍校への情報提供等に取り組んでいきたい。</li><li>・引き続き、児童生徒の実態や背景、教育的ニーズを丁寧に把握し、一人ひとりに応じた指導・支援の内容や方法を工夫できるよう、子ども理解や指導力向上のための研修に取り組んでいきたい。</li><li>・病弱教育、肢体不自由教育、発達障がい支援等に関する小中学校や高等学校等のニーズを的確に把握し、訪問等による地域支援に一層取り組むとともに、これまで蓄積してきた教育実践や教材、支援方法等を研修会や学校ホームページを通して積極的に情報発信していきたい。また、各コーディネーターの育成及び業務の確実な引継ぎにつながる校内体制づくりや業務の見直しに取り組んでいきたい。</li></ul>
--------------	---

学校運営につ  
いての改善策

- ・各校の校務分掌の共通業務をさらに整理するとともに、各校の実情や課題等を共有し合い3校間の教職員の同僚性を高め、風通しのよい職場風土の醸成に努めたい。
- ・コンプライアンスの徹底に向け、引き続き「学校信頼向上委員会」の活動を中核に据えた取組を進めるとともに、教職員の多忙感にも配慮し計画的に研修を行うことで、規範意識を一層高めていきたい。
- ・新しいパソコンシステムや統一校務支援システムを効果的に活用し、会議の縮減や業務の精選・見直しを図ることで、時間外労働時間の削減等につなげていきたい。